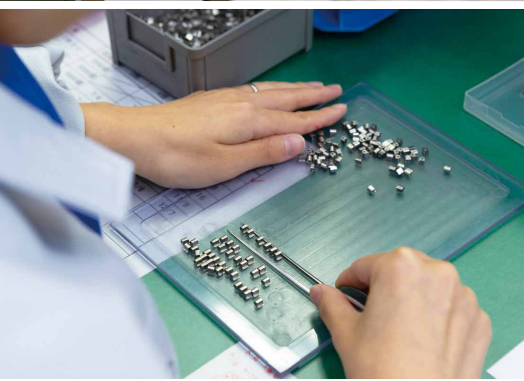
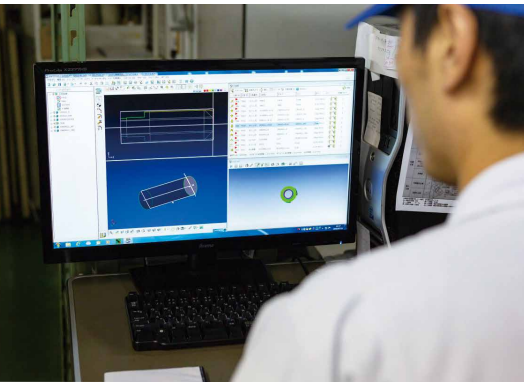


手賀精工 株式会社

- ▶対象類型 ものづくり技術・精密加工
- ▶事業類型 成長分野型 設備投資のみ
- ▶主たる目的 商品開発、生産性向上

生産設備新設及びソフト導入による 医療機器部品の販売拡大



2	1
3	
4	

1／生産性の向上とともに新分野への業務拡大に貢献しているCNC自動旋盤（H25年度事業で導入）。 2／人為的なミスの軽減に加え、衝突検証などもソフト上で可能になったシミュレーションソフト。 3／品質保証部では全品検査で寸法精度や外觀などを厳しくチェックしている。 4／H24年度の事業で導入し、医療分野に活用されている5軸制御精密マシニングセンタ。

最新加工機の導入などで内視鏡部品の納期を改善。

手賀精工は眼鏡部品に加え、近年は高精度加工技術を生かして医療部品などにも事業分野を拡大し、内視鏡鉗子の部品を製造している。しかし機械や工具、加工品との衝突検証やプログラム作成などの段取りを手作業で行うために長時間を要し、機械の損傷や入力ミスなどのリスクがあった。また増加する受注に対して機械が不足し、顧客から納期改善を求められていた。

そのため、現有2台と本事業で新規導入する1台の計3台の機械にマシンシミュレーションソフトを導入。作業工程のプログラムを自動作成・転送できるようになり、プログラム作成時の人為的ミ

スと確認作業が無くなり、衝突検証もコンピューター上で実施できるようになった。スリット加工の位置調整では30分の時間短縮を図れたのははじめ、従来と変わらぬ品質を保ちながら加工までの段取り時間が約1時間、12.5%改善された。CNC自動旋盤の導入では、制御軸の早送り速度の向上による工程間移動時間の短縮と、背面主軸回転速度などの高速化で、一工程当たりの加工サイクルタイムが15秒短縮され、生産性が12%向上。顧客への納期が改善されるとともに、受注機会の拡大や新分野への業務拡大にもつながっている。

注目すべき 成果

生産性の向上で納期が改善。

シミュレーションソフトによる段取りのデジタル化と最新の加工機械導入による生産性の向上で、安定した最善の加工内容・タイミングと高い品質評価を保ちながら、顧客の納期改善の要望に対応することができた。

導入による 付加価値

新たな加工技術を新分野に応用。

導入したCNC自動旋盤は、従来は後加工が必要だった斜め穴開けの加工が、自動で一工程で可能となった。その技術を活用して新分野にも積極展開し、自動車製造の加工設備に用いる部品の受注につながった。

今後の展望

医療分野で、広がる受注機会。

本事業で生産性を高めた内視鏡鉗子の部品は、より小型の製品の開発を進めるとともに、既存顧客以外からの類似部品の引き合いもある。さらに、手術用ロボットの部品や歯科関係の器具などの開発にも携わる。

ものづくり専門員から一言

1/100mm水準の
加工技術習得が、
次代の
経営を目指す礎に。

医療分野への更なる進出を目指す同社にとって、喫緊の課題であった“縦軸加工”や“ななめ穴加工”等の1/100mm技術の確立と生産性向上手法をものづくり補助金で習得。当該技術は、眼鏡等周辺部品への加工依頼に繋がり、同社の経営基盤である“超精密切削加工”を深化させている。

こんな会社です！



代表取締役
手賀 栄一郎さん

「微細なモノづくり」を徹底追求。

一昨年に創業60周年を迎え、光学部品だけでなく、医療機器やセンサーなどの電子機器、産業機械部品などの分野でも高評価を得ています。主力の眼鏡用の蝶番やリムロックなどの製造設備は自社開発し、当社の成長の基盤となりました。近年はそこで培った加工技術やノウハウを、マシニングセンタやCNC自動旋盤の数値制御、自動化に応用・融合させることで、他分野にも裾野を広げてきました。今後も省力化・自動化と、持ち前の微細・高精度加工の両輪をより一層レベルアップさせ、より高精度な加工に挑戦していきたいと思います。

手賀精工 株式会社

代表者／代表取締役 手賀 栄一郎
設立／昭和31年（1956年）11月
資本金／2,000万円
従業員数／40名
事業内容／金属部品製造販売
〒916-0057 鯖江市有定町1-6-14
☎0778-51-4350 FAX.0778-52-5775
E-mail info@tegaseiko.co.jp
URL http://www.tegaseiko.co.jp



微細な加工技術を生かした眼鏡や医療機器用の部品。



本社・工場